

岡山醫學會雜誌第三百七十九號

大正十年八月三十一日發行

原 著

再ビ長大ナル莖狀突起ニ就キテ

岡山醫學專門學校耳鼻咽喉科助手

(主任、田中教授) 笠 井 經 夫

余ハ曩ニ、田中教授ト共ニ自覺的ニ、咽頭症狀ヲ呈シ、此原因ガ長大ナル莖狀突起ニ在ルヲ知り、且其突起ガ咽頭内ニ到達セルヲ觸診上及ビX線検査ニヨリテ確認シ、口蓋扁桃腺ノ全摘出ヲ行ヘル後、該突起ノ咽頭内ニ現ハレタル部分ヲ切除シ、之ニヨリテ其自覺症ヲ消退セシメ得シニ例ニ就テ、岡山醫學會雜誌第三百七十號ニ報告セリ。而シテ其報告ノ末尾ニ如斯症例ハ若シ臨牀家が注意シテ觀察スルナラバ、吾人が想像スル以上ニ存在スルモノニアラザルカ。即チ從來思惟セラレタルガ如ク、甚シク稀ナルモノニアラズシテ、臨牀上興味ヲ有スルコト尠カラザラント附記セリ。

其後此方針ノ下ニ注意觀察ヲ怠ラザリシニ幾何モナクシテ、生體或ハ死體ニ於テ、其莖狀突起ガ異常ニ長キ四例ヲ觀察シ得タレバ、愈々其最初ノ推察ノ誤ラザリシヲ知ルト共ニ、タトヘ此等ノ症例ニ於テハ、此莖狀突起ヨリ來リシ、自覺症ヲ缺如シ、或ハ又不明ナリシト雖、如斯事實ハ臨牀家トシテ又大ニ注意スベキモノナラント思惟スル

ガ故ニ以下簡單ニ其所見ニ就テ、記載ヲ試ミントス。

第一例、 田、新、男、農、四十四歳。

本患者ハ四箇月前ヨリ左側上腿ニ、疼痛、腫脹ヲ來シタリトテ、當校外科教室ヲ訪レタルモノニシテ、左側急性四頭股筋々炎ナル診斷ノ下ニ手術セラレ、其經過悪シクシテ、遂ニ不幸ノ轉歸ヲ取レルモノナリ。而シテ其屍體ハ病理學教室ニ於テ解剖ニ附セラレタルモノニシテ、剖檢ニ際シ、右側莖狀突起ハ、異常ニ長クシテ、莖狀突起尖端ハ舌骨大角ノ近クマデ延長シ、其間ノ距離僅ニ一握ヲ隔ツルノミニシテ、此部ハ莖狀舌骨韌帶ニヨリテ連接セルヲ發見セラレ、執刀者タル病理學教室菅野君ノ御厚意ニヨリ、余等ニ指示セラレタルモノナリ。但シ、本例ハ生前ニ於テ、咽頭症狀ヲ訴ヘシヤ否ヤ不明ナリ。

第二例、 佐、利、男、農、二十七歳。

既往症、 本患者ハ生來健康ニシテ、著患ナク、花柳病ヲ否定ス、約一年前右側上顎犬齒部ニ疼痛ヲ起シ、次イデ、化膿ヲ來シ、排膿アリトテ吾臨牀ヲ訪レタルモノナリ、而シテ咽頭症狀ニ就キテハ全く訴ル所ナシ。

現症、 營養良ニシテ、體格中、頭部、顔面、胸腹部、四肢ニ異常ナク、聽器ニ變化ナシ、肥厚性鼻炎ヲ有ス。咽頭喉頭ニ全く變化ナシ。右側上顎犬齒ト同側門齒トノ間ニ瘻孔アリテ排膿ス。之レガ検査ノ目的ヲ以テ當該部ノX光線寫眞ノ撮影ヲ乞ヒタルニ、左側莖狀突起長大ニシテ、其尖端ハ明カニ下顎隅ノ少シク上方ニマデ到達シ、全體トシテ凹面ヲ前方ニ向ケ弓狀ニ彎曲セルヲ知ル、但シ咽頭ヲ内側及ビ外側ヨリ之ヲ觸診スルモ確實ニ證明シ得ザリキ。

第三例、 妹、嘉、男、農、職工、四十歳。

既往症、 遺傳的ニ認ムベキモノナク、生來健康ニシテ著患ナシ、二十日前左側下顎大白齒ニ疼痛ヲ感ジ、大白齒二枚ヲ拔去シタルモ治セズ、其後該部腫脹シ疼痛アリテ、咀嚼障礙ヲ訴ヘ遂ニ切開セシモ瘻孔ヲ殘シテ治セズト

テ來院セルモノナリ。

現症、體格營養良ニシテ、身體各部ニ於テ局所ノ外變化ナシ、即チ咽頭ニハ全ク變化ナク、左側頸部ノ瘻孔ノ骨ト關係ナキヤヲ檢スルタメ、X光線寫眞撮影ヲ乞ヒタルニ、本例ニ於テモ亦左側莖狀突起異常ニ長クシテ、下顎隅ニ達シタルヲ認メタリ。而シテ以前一時咽頭痛ヲ自覺シタルコトアルモ、之レハ間モナク去リ、目下何等ノ症狀ナシト云フ。本例モ亦觸診上確實ニ之レヲ證明シ得ザリキ。

第四例、姓名不詳、男、二十二歲。

本例ハ解剖學教室ニ來レル一囚人屍ニシテ、肺結核ニヨリ倒レタルモノニシテ二十二歲男子ナルコトハ明ナルモ、其他ハ不明ナリ。而シテ解剖ノ際左側莖狀突起普通ヨリ非常ニ長シトテ解剖學教室關君ヨリ注意セラレタルモノニシテ、之レヲ測定スルニ三七種アリテ、第一頸椎ノ高サニ於テ、一ツノ結節狀ヲ呈シ、其ヨリ下顎隅ニ向ヒテ斜走セリ、而シテ本例モ亦タ生前ニ於ケル臨牀上所見全ク不明ナルモノナリ。

摘録、以上四例中第二及ビ第三例ハ共ニ何等咽頭症狀ヲ呈セザリシモノニシテ、全ク他ノ目的ニ向ツテX光線寫眞撮影ニ際シテ、初メテ之レヲ認メタルモノナリ、而シテ第一及ビ第四例ハ共ニ屍體解剖ニ際シ其長大ナルヲ知リタルモノニシテ、生前此等ガ咽頭症狀アリシヤ否ヤ不明ナルモノナリ。

以上四例ハ何レモ直チニ臨牀上ノ興味ヲ有セザルモ、前回ノ報告中ニ既ニ異常ニ長キ莖狀突起ノ存在セシニモ拘ハラズ、從來何等ノ自覺的症狀ナカリシモノニ於テ、一朝其障礙ノ發現スルハ、恐ラク扁桃腺炎其他ノ原因ニヨリテ、其部位ノ局所的關係ニ變化ヲ來セルガタメニ、從來無害ナリシ莖狀突起モ却テ器械的刺戟ヲ加フルニ至リ、種種ナル咽頭障礙ヲ來スモノナラントセリ。而シテ前回報告セル二例モ亦タ、從來何等ノ症狀ヲ呈セザリシモノニ於テ、一朝ニシテ、咽頭障礙殊ニ嚙下痛ヲ發來セルモノナリ。而シテ今回ノ四例ニ於テモ、之レガ咽頭障礙ハ全然ナカリシモノ、又ハ不明ナリシト雖、何レニシテモ、如斯長大ナル莖狀突起ハシカク稀レナルモノニアラズシテ、精

笠井―再ビ長大ナル壑狀突起ニ就キテ

五八六

細ナル検査殊ニ「レントゲン」検査ニヨレバヨク之レヲ證明シ得ルモノナルヲ示スモノナルベク、此事實ハ又臨牀上ニ多少ノ考慮ヲ要スルモノナラント思惟スルガ故ニ、重ネテ此所ニ遭遇セル四例ニ就キテ報告シ、諸賢ノ參考ニ供スルト共ニ、以テ記録ニ止メントスル所以ナリ。

擱筆スルニ當リ、有益ナル材料ヲ指示サレタル、病理教室菅野君、解剖教室關君及ビ懇篤ナル指導ト注意ヲ受ケタル「レントゲン」教室ノ村松講師竝ニ我教室ノ田中教授ニ對シテ、深ク謝意ヲ表ス。